

ふくいの土地改良

260



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019 入賞 「ふるさと水と土優秀賞」

「光輝く用水路」 福井市文殊小学校6年 松浦 千夏さん

新年のごあいさつ

・・・ 1～9

要請活動報告

・・・ 16～17

【インフォメーション】

令和2年度 農村振興局関係予算概算決定の
重点事項

・・・ 10～12

「第42回全国土地改良大会 岐阜大会」
に参加

・・・ 13～14

「農業農村整備の集い」に参加

・・・ 15

「全国水土里ネット女性の会」設立総会
に出席

・・・ 15

【不定期連載】 土地改良区だより

・足羽川堰堤土地改良区連合

・・・ 18

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019
結果報告

・・・ 18

水土里ネットふくいの行事

・・・ 19

農業基盤整備資金利率のお知らせ

・・・ 19





新年のご挨拶

水土里ネットふくい 会長 山崎 正 昭

新年あけましておめでとうございます。

令和2年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員をはじめ土地改良関係者の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より農業農村整備事業の推進ならびに本会の業務運営に格別のご支援とご協力をいただいておりますことに心よりお礼を申し上げます。

昨年にも全国各地で地震や台風により多くの自然災害が発生いたしました。特に関東・東北地方などを襲った台風15号、19号では暴風雨による大規模停電、住宅の浸水や倒壊、農地の冠水など甚大なる被害に見舞われ、残念ながら死者を含む人的被害も発生しました。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に対しまして、心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興・復旧ができますよう祈念いたします。

さて、現在、国においては、今後の農政の基本となる「新たな食料・農業・農村基本計画」の見直しが進められております。農業・農村の適切な維持と生産基盤の強化に向け、これまでの大規模経営体の育成だけでなく、家族農業や兼業農家・中小規模農家も地域農業をしっかりと支えていることを踏まえ、その対策の必要性が提起されました。今後、農家の所得増大などの産業政策に加え、こうした多様な農業経営を支える地域政策についても検討を進め、来年3月末には新たな計画を閣議決定することとなっております。

本県におきましても、昨年3月に福井県農業を取り巻く新たな課題や状況の変化に対応するため「新ふくいの農業基本計画」が策定され、産業振興と地域振興の両面から農業政策を推進することで大規模な農業法人や専業農家から小規模農業者まで、すべての農家が活躍できる「農業新時代」を築いていくとしております。

農業・農村を巡る情勢が大きな変換期を迎える今、全国一律ではなく地域の特性に合った農業政策の推進が必要であります。国の農業農村整備事業の関係予算につきましては、関係各位のご尽力により令和元年度補正と令和2年度当初予算を合わせて、総額6,515億円で対前年64億円増の予算を確保することができました。

これまで農地や農業水利施設などの農業生産基盤の整備・管理を担ってきた水土里ネットは、情勢変化に対応しうる運営基盤の強化を図り、地域の農業振興のため、我々に課せられた役割を十分果たしていかなければならないと考えております。

ご承知のとおり、昨年の参議院議員通常選挙では、進藤かねひこ議員に続き、宮崎まさお氏を皆様の絶大なるご支援により国政に送ることができました。

水土里ネットふくいといたしましても、これまで以上に国・県の施策の動向に注視しつつ、会員の皆様や我々の代表である両議員とも連携を図りながら予算確保をはじめ、地域農業の発展のため努力していく所存でございます。一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年が明るく実り多い年でありますように、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



稼げる農業経営の実現に向けて

福井県知事 杉 本 達 治

水土里ネットふくいの皆様、新年明けましておめでとうございます。
日ごろから農業・農村の発展にご尽力されていることに深く感謝いたします。併せて、農政推進にご協力いただいていることに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、県では、県民の方々の意見を聞きながら20年後のあるべき福井の姿を想定した長期ビジョンの策定を進めています。私は、農業は福井県の基(もと)であり、本県の発展にとって重要な産業と考えております。稼げる農業の実現により、20年後には、農業の力でふくいをブランドアップすることを目指します。

平成30年に本格販売を始めた「いちほまれ」は2年目を迎え、テレビCMの放映に加え、都市圏における様々なイベントでのPRにより、県外でも着実に定着しつつあり、順調な売れ行きとなっています。「いちほまれ」をけん引役として、福井のお米全体の評価を高めるため、引き続き、生産者、JAとともに成長する米産地づくりを目指します。

昨年12月には、新たに集落営農組織の後継者やオペレーターを育成するため、「越前若狭 田んぼ道場」を開講しました。34名の研修生は、本年10月まで座学研修や現場圃場での機械の操作実習を行います。園芸カレッジと併せ新時代の農業を担う新しい人材を育てていきます。

また、昨年から県内3カ所でスマート農業の実証試験を実施しています。今後は、水稻・大麦・そば・大豆を組み合わせた2年3作の労働時間を3割削減するとともに、収量1割アップを目指し、地域の特色を活かしたスマート農業の実用化につなげます。

さらに、農業の所得向上を図るためには、園芸への転換も重要です。そのため、水田を活用した白ネギやキャベツ、タマネギ栽培などの、定植や収穫等の機械化を支援し、生産拡大を進めます。施設園芸についても、嶺南地域を中心とした取組みから県内全域に展開し、本県の園芸生産額を拡大します。

一方、生産条件が不利な中山間地域においては、高齢農家の負担を軽減するため、除草ロボや防除ドローン等の導入を支援しています。また、小規模でも集落営農を継続できるよう田植え機などの農業機械や、新たに園芸を導入するためのハウス等の整備を支援し、営農の継続を後押しします。

3年後の2023年春には、北陸新幹線が敦賀まで延伸し、地域外からの人の流れが見込まれます。この機会を稼げるチャンスととらえ、直売所(ふるさと農の駅)を拠点に、近隣にある観光名所や観光農園、農家民宿などを結び付け、にぎわいのある農山漁村への発展を目指します。

JAにおいては、本年4月に、県下の10JAが一つとなり、県下全域を範囲として新たなスタートを切ります。県としても、生産指導体制の強化や広域的な集出荷体制の整備など、農家所得の最大化につながるJAの取組みを応援していきます。

年頭に当たり、皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつとします。



年 頭 挨 拶

北陸農政局長 森 澤 敏 哉

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、我が国農業は、国民の必要とする食料の安定供給を図るため、食料自給率の向上を目指す中、担い手不足や農地の減少に加え、頻発する自然災害やCSF等の家畜伝染病の発生、農産物貿易をめぐる国際環境の変化など、様々な政策課題に直面しております。

また、人口減少や高齢化に伴い国内マーケットが縮小する一方で、世界の農産物・食品マーケットは拡大を続けるなど、国内外で大きな環境変化が見込まれており、農林水産省では、農業や食品産業の成長産業化を促進する産業施策と、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を促進するための地域施策を車の両輪として、若者たちが希望を持てる「強い農業」と「美しく活力ある農村」の実現に向けた施策を展開しております。

こうした中、現在、今後の農業・農村の政策の方向等を示す食料・農業・農村基本計画について、5年毎の見直しの審議が進められており、国産農産物の消費拡大や輸出拡大、新規就農者の確保に向けた対策、生産性の向上を図るための農業基盤整備、スマート農業技術の導入に対する課題等が議論されております。さらには、次期土地改良長期計画を視野に入れた、農業農村整備の推進方向についても検討されております。

土地改良区についても、昨今の農業・農村を取り巻く情勢の変化に適切に対応できる仕組みや体制を整えることとし、土地改良法の改正を行い、地域の担い手や活動組織にも土地改良区を下支えしていただく准組合員制度を導入するとともに、計画的な更新費用の積立に資するよう会計基準を見直す等、土地改良区の運営の強化を図ったところであります。

北陸地域は、耕地面積の9割が水田であり、農業産出額の6割を米が占めるなど、水稻を中心とした農業経営が盛んに行われてきました。しかしながら、人口減等を背景に主食用米の需要量が減少傾向にある中、農業者の所得の維持・向上を図るためには、水稻以外の高収益作物の導入や複合経営への転換など、すそ野を広げる形を考えていく必要があります、このためには、農地や農業用水などの農業・農村の基盤整備が重要であると考えております。

北陸農政局としましても、素晴らしい北陸の農業・農村が、次の世代へ確実に引き継がれるよう、地域のニーズを十分に踏まえた農業農村整備事業を推進し、豊かな食生活とそれを支える地域社会を維持していきたいと考えております。

結びに当たり、本年も引き続き農政の推進について御理解と御協力をお願いしますとともに、福井県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会 会長 二 階 俊 博

令和2年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、6月、8月の大雨、さらに台風第15号、第19号による暴風雨等により、全国各地で非常に多くの災害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災をされた多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、復旧・復興のために、被災地の最前線に立って日夜ご尽力頂いている多くの土地改良関係の皆さまに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、平成から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和二年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、昨年度当初予算を上回る4,433億円を確保することができました。さらに、令和元年度の補正予算・臨時特別措置枠を含めると6,515億円となります。皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

また、昨年7月の参議院選挙におきましては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に12年ぶりの「車の両輪体制」が実現したわけです。

このように土地改良は、新しい元号「令和」の幕開けにふさわしいスタートを切ったわけであり、これも一重に「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方の御協力の御陰であります。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。特にここ数年は大規模な風水害により、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いており、平成30年の7月豪雨では、全国で32カ所のため池が決壊し、尊い人命も犠牲になるなど未曾有の被害が発生しました。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、2年続けて土地改良法が改正されるとともに、老朽化したため池の整備について抜本的な施策を講ずるため、長年の懸案であった「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が国会で成立、施行されました。さらにいま、政府・与党では「食料・農業・農村基本計画」の見直しも議論されているところであります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様に応じ、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進 藤 金日子

新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。昨年は、「令和」の御代に移り、多くの国民が寿ぐ中で天皇陛下が御即位されました。「令和」の時代が平和で穏やかであるようにあらためてご祈念申し上げる次第です。

他方、昨年も多くの自然災害が発生しました。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。今年こそは災害の無い年になるように祈念して止みません。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、総務大臣政務官としての私の担務である「国勢調査」（初回開始後百周年）も行われます。多くの国家的な行事の成功に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さて、昨年末に令和元年度補正予算と令和2年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,515億円（対前年度比64億円増）を確保できました。これも偏に、農業の競争力強化と美しい農山村の形成に不可欠な土地改良の実施に向けての現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、引き続き「国土強靱化」に重点が置かれたこと、水田の高度利用対策が更に重点化されたこと、農業の競争力強化に加えて中山間地域等の条件不利地域の振興対策が手厚く措置されたことだと捉えています。予算の増額措置により土地改良が更に促進されますが、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

昨年末、自民党農村基盤整備議員連盟総会において、ため池の整備促進を図る特別措置法を議員立法として検討することが提案・了承されました。ため池の保全管理を図る法律は、昨年制定・施行されましたが、整備促進に関する多くの課題が現場から提起されています。

先般、福井県にお邪魔した際も「新たな食糧・農業・農村基本計画」の見直し、コメ政策、中山間地域対策等、様々なご意見を頂き改めて地域事情を踏まえたきめ細かな政策立案が不可欠と感じたところです。現場の実態に真摯に耳目を集めつつ検討を深め、与野党問わず多くの国会議員のご理解を得るべく努力してまいります。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫さんも参議院議員として活躍しております。これも皆様方のご理解とご支援の賜物です。宮崎議員と私とが水鳥の強固な水掻きとしてフル稼働して、皆様と連携しながら「闘う土地改良」を共闘し、引き続き諸課題の解決とともに令和の新たな時代を切り拓くべく専心努力してまいります覚悟ですので、ご指導とご支援を宜しく申し上げます。

貴会の益々のご発展と本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 宮崎 雅夫

新年明けましておめでとうございます。

福井県の土地改良関係の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私にとっての昨年は大きな前進の年でありました。一昨年1月から、土地改良の推進、農山漁村の振興のため、地球8周分に当たる30万キロ以上を移動しながら全国各地をお伺いし、地域の状況を自分の目で見て、皆様からのご意見を自分の耳で聞き、私の考えを自分の口で話をさせていただくなどの政治活動を行ってまいりました。福井県の皆様をはじめ全国の皆様からご支援をいただき、お陰様をもちまして昨年7月末の参議院議員通常選挙において当選の栄に浴することができました。

当選後、8月1日に召集された臨時国会で初登院し、10月4日に召集された臨時国会では、農林水産委員会、決算委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会、資源エネルギーに関する調査会に所属しております。農林水産委員会等で3度質問に立たせていただき、土地改良の推進や予算の確保などこれまでの活動中皆様から頂いたご意見を私の質問として農林水産大臣等にしっかり伝えました。党での各種部会での発言なども含め、皆様と国政を繋ぐパイプとしての役割を果たせるよう日々努力してまいります。

昨年も残念ながら台風19号をはじめ一連の自然災害により、甚大な被害が発生しました。農地や農業用施設も全国各地で大きな被害が広範囲で発生いたしました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。早期の復旧はもちろんですが、土地改良の果たす大きな役割を踏まえ、防災・減災、国土強靱化の取り組みを強力に進めていかなければなりません。

特にため池の耐震対策・豪雨対策などのハード面やハザードマップの整備などのソフト面の対策は待ったなしです。政府の「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」による集中的な取り組みが終了する令和2年度以降も更に取り組みが促進するよう全力で取り組んでまいります。

そして、それぞれの地域農業が発展するための基礎となる基盤整備は、着実に進めていかなければなりません。省力化だけではなく若者の興味も高めるスマート農業は平地のみならず中山間地も推進していく必要があります。そのためには情報基盤の整備を含め基盤整備は欠かすことのできないものです。

これらの計画的な実施には、土地改良予算の安定的な確保が必要不可欠です。皆様からの大変大きなご支援により、令和2年度は、（当初4,433億円、補正1,542億円、3カ年緊急対策540億円の計）6,515億円を確保することができました。今後ともこの流れを止めることのないよう尽力してまいります。

また、産業政策だけではなく、家族農業や中小規模の農家、兼業農家の役割を再確認しつつ、地域農業、農村集落自身を守っていくための地域政策をバランスよく実施していかなければなりません。農政の基本となる食料・農業・農村基本計画の5年に一度の見直しが進められていますが、その中にもしっかりと位置づけられる必要があります。

私は「土地改良、農山漁村は未来への礎」と訴えてまいりました。令和の新しい時代に皆様のご意見を伺いながら土地改良を推進することにより、世界に誇る我が国のすばらしい農山漁村を子供たち孫たちに引き継げるよう、先輩の進藤金日子参議院議員と力を合わせて努力をしてまいります。12年ぶりに土地改良二人体制となり、人口減少社会に突入した我が国の状況を踏まえ、土地改良も必要な見直しを大胆に進めていきたいと考えております。また、農村女性の創造力や企画力、行動力などは、これからの農村振興を加速する重要な原動力と考えています。昨年12月には「全国水土里ネット女性の会」が設立されたところであり、今後の活発な活動に私もお手伝いをさせていただきたいと思っています。引き続き進藤議員と私にご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

今年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、更に多くの外国人の方が日本に来られることが期待されています。日本の農業、農村のすばらしさを皆様どんどん発信してまいりましょう。

最後に、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のあいさついたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶

福井県農林水産部 副部長（農村振興） 木 戸 敏 浩

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

水土里ネットふくいの会員の皆様方には、新年を迎えられ、ますますご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃より農業農村整備事業の推進を通じ、本県の農業・農村の振興に多大なご尽力を頂いておりますことに、心よりお礼申し上げます。

昨年は元号が平成から令和に変わる節目の年となりました。昭和、平成と移り変わる時代の中で、農業と農業土木を取り巻く環境は大きく変化し、令和という新時代を迎え更なる変革を迎えようとしています。

そのような中で農林水産部では平成31年3月に「ふくいの農業基本計画」を策定しました。基本計画では令和元年度から令和5年度までを計画期間とし、大規模な農業法人や専業農家から小規模農業者まで、すべての農家が活躍できる「農業新時代」の基本理念のもと①生産・販売の拡大、②農村の魅力創出・交流促進、③若い人材の確保・育成、④ふくいの食育・地産地消を大きな柱とした10のプロジェクトにより、「農家全体の所得の最大化」「みんなが生きがいを持てる農業」「ふるさと福井の農村文化を昂揚」を目指す姿としています。

基本計画では、「スマート農業の導入による次世代農業の創出」、そして「農地、水を守り、農ある風景や農村文化を次世代に継承」していくこととしています。

「スマート農業の導入による次世代農業の創出」する取り組みとして、自動走行トラクタやパイプラインによる自動給水栓の導入や、大区画化や用水路のパイプライン化等を推進していきますが、スマート水田農業の導入効果を最大限発揮するためには、農地などの基盤が整備されている必要があります。基盤整備は計画から整備完了までに長期間を要するため、スマート農業を導入した営農の姿を想定した区画、畦畔の形状等や、将来的な技術開発をも予測した整備計画を提案していく必要があると考えています。

また、「農地、水を守り、農ある風景や農村文化を次世代に継承」する取り組みとしては 農ある暮らしや風景に光を当てて、農村文化や農業の大切さを県民で共有するため、本年度より「ふくいの農ある風景フォトコンテスト」を開催し、県内の農村ならではの風景や暮らし・文化を広く県民のみなさんへPRし、農村の保全活動を活性化させていきます。また農業水利施設のストックマネジメントによる長寿命化対策や地域協働での維持管理強化に取り組むとともに、集落単位の保全活動組織を広域化し、土地改良区が参画することにより機関施設から末端施設までの一貫した保全活動を展開していきます。

すべての農家が活躍できる農業農村を目指し全力で取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

インフォメーション

令和2年度 農村振興局関係予算概算決定の重点事項

■ 主要予算総括表 (単位:億円)

事 項	令和元年度 当初予算額	令和元年度 補正予算額	令和2年度 概算決定額			
			「臨時・特別の 措置」を除く A	「臨時・特別の 措置」 B	概算決定額 A + B	対前年度比
一般会計						
公共事業	4,872	2,141	4,326	557	4,883	100.2%
農業農村整備事業	3,771	1,466	3,264	511	3,775	100.1%
農山漁村地域整備交付金	977	72	943	42	985	100.8%
海岸事業	41	3	36	4	40	97.6%
災害復旧事業	83	600	83	—	83	100.1%
非公共事業	1,569	45	1,553	—	1,553	99.0%
農村振興局予算総額	6,441	2,187	5,879	557	6,435	99.9%

■ 令和2年度 農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要 (単位:億円)

事 項	令和元年度 当初予算額	令和2年度 概算決定額			令和元年度 補正追加額 D	合 計 C + D
		「臨時・特別の 措置」を除く A	「臨時・特別の 措置」 B	概算決定額 C = A + B		
農業農村整備事業(公共)	3,260	3,264 (100.1%)	511	3,775 (115.8%)	1,466	5,241 (160.8%)
農業農村整備関連事業(非公共)	508	508 (100.1%)	—	508 (100.1%)	14	522 (102.8%)
農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業						
農山漁村地域整備交付金(公共) (農業農村整備分)	650	661 (101.7%)	29	690 (106.2%)	62	752 (115.7%)
計	4,418	4,433 (100.3%)	540	4,973 (112.6%)	1,542	6,515 (147.5%)
				「臨時・特別の措置」を除く		5,975 (135.3%)

注：下段()は令和元年度予算額(「臨時・特別の措置」を除く)との比率

1 「スマート農業」の実現と強い農業のための基盤づくり

(1) 農業農村基盤整備(競争力強化・国土強靱化)

〔農業農村整備事業関係予算は、当初(臨時・特別の措置を含む)と補正を合わせて **6,515億円**〕

① 農業農村整備事業<公共>

農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化や豪雨・耐震化対策等を推進するとともに、スマート農業の基礎インフラとして、ICTを用いた水管理省力化技術の導入等も推進

【補正予算】
3,264億円 1,466億円
(3,260億円)

② 農地耕作条件改善事業

農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化、高収益作物への転換、モデル的な産地形成を推進するため、機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域等において、農業者の費用負担の軽減を図りつつ、事業を実施すること等により、区画拡大等を促進

250億円
(300億円)

③農業水路等長寿命化・防災減災事業

農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能を安定的に発揮させるため、機動的かつ効率的な長寿命化対策及び防災減災対策を支援

258億円
(208億円)

④農山漁村地域整備交付金＜公共＞

地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策に必要な交付金を交付

943億円
(927億円)

【補正予算】
72億円

うち中山間地域農業枠
38億円

(2)和牛増頭・増産対策を始めとした畜産・酪農の競争力強化

○草地関連基盤整備＜公共＞

畜産経営規模の拡大や畜産主産地の形成に資する飼料生産の基盤整備等を推進

3,264億円の内数
(3,260億円の内数)

【補正予算】
58億円

2 担い手への農地集積・集約化等による構造改革の推進

(1)農地中間管理機構による農地集積・集約化と農業委員会による農地利用の最適化

①農地の大区画化・汎用化の推進＜公共＞

農地中間管理事業の重点実施区域等において、担い手への農地集積・集約化を加速化して米の生産コストの大幅な削減を図るため、農地の大区画化や排水対策、水管理の省力化等の整備を推進

3,264億円の内数
(3,260億円の内数)

【補正予算】
(農地の更なる大区画化等の推進)
270億円

②農地耕作条件改善事業(再掲)

(既述につき省略)

250億円
(300億円)

3 水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施

(1)水田フル活用の推進

○水田農業の高収益化の推進＜一部公共＞

高収益作物の導入・定着を図るため、「水田農業高収益化推進計画」に基づき、国のみならず地方公共団体等の関係部局が連携し、水田における高収益作物への転換、水田の畑地化・汎用化のための基盤整備、栽培技術や機械・施設の導入、販路確保等の取組を計画的かつ一体的に推進

(水田活用の直接支払交付金)

3,050億円の内数

(農業農村整備事業)

3,264億円の内数

(担い手の育成と生産・供給の基幹となる施設整備の推進)

230億円の内数

(品目別の生産振興対策)

89億円の内数

(畜産生産力・生産体制強化対策事業)

9億円の内数

【補正予算】
(水田の畑地化、畑地・樹園地の
高機能化等の推進)

566億円

【補正予算】
(産地生産基盤パワーアップ事業)

348億円の内数

4 食の安全・消費者の信頼確保

○鳥獣被害防止総合対策交付金

CSFのまん延防止を図るため、野生イノシシの捕獲活動を直接支援するとともに、広域的な捕獲活動の実施、ICT(情報通信技術)を活用したわな等の効率的な捕獲等を支援

100億円の内数
(102億円の内数)

【補正予算】
5億円の内数

5 農山漁村の活性化

(1)日本型直接支払の実施

①多面的機能支払交付金

農業・農村の有する多面的機能が維持・発揮されるとともに地域全体で担い手を支えるため、農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付

487億円
(487億円)

②中山間地域等直接支払交付金

中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、棚田地域を含む条件不利地域での農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付

261億円
(261億円)

(2) 中山間地農業の所得向上を始めとした農山漁村の活性化

① 中山間地農業ルネッサンス事業＜一部公共＞

棚田を含む傾斜地等の条件不利性や鳥獣被害の増加など中山間地農業が置かれている状況を踏まえつつ、地域の特徴を活かした多様な取組を後押しするため、多様で豊かな農業と美しく活力ある農山村の実現や、地域コミュニティによる農地等の地域資源の維持・継承に向けた取組を総合的に支援

442億円
(440億円)

(中山間地域農業農村総合整備事業)

【補正予算】
282億円

② 棚田・中山間地域対策＜一部公共＞

棚田地域を始めとする中山間地域の振興を図るため、棚田地域振興法に基づく棚田保全・振興に必要な調査の実施や景観修復等の環境整備を支援するとともに、基盤整備と生産・販売施設等の整備を総合的に支援

50億円
(一)

(農山漁村地域整備交付金)

943億円の内数
(927億円の内数)

【補正予算】
うち棚田地域振興緊急対策 2億円
うち中山間地域所得向上支援対策 242億円
うち農山漁村地域整備交付金 (中山間地域農業枠) 38億円

③ 農山漁村振興交付金

農山漁村における所得向上や雇用増大により活力ある農山漁村を実現するため、棚田を始めとする地域資源を活用した計画策定・取組の実践や都市における農業体験活動等、地域におけるビジネスとしての「農泊」実施や農福連携の実施のための施設整備等、山村における地域資源の活用等の取組や農山漁村における定住・交流に資する施設整備等を総合的に支援

98億円
(98億円)

- ア 「農泊」の推進
- イ 農福連携の推進
- ウ 都市農業の多様な機能の発揮

【補正予算】
5億円

④ 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進

捕獲活動の強化やICTを活用したスマート捕獲、侵入防止柵の整備等の鳥獣被害防止対策とともに、ジビエ利用拡大に向けた人材育成、捕獲から処理加工段階の情報を関係者が共有できるネットワーク構築の実証等を実施するほか、シカ被害対策のための新技術等の開発・実証等をモデル的に実施

102億円
(104億円)

【補正予算】
2億円

⑤ 特殊自然災害対策施設緊急整備事業

火山の降灰等の被害に対応するための洗浄用機械施設等の整備やこれと一体的に行う用水確保対策等を支援

3億円
(2億円)

6 災害からの復旧・復興と防災・減災、国土強靱化

(1) 台風19号等の災害からの復旧・復興

① 災害復旧等事業＜公共＞

被災した農地・農業用施設の速やかな復旧等を実施・支援

83億円
(83億円)

【補正予算】
600億円

② 特殊自然災害対策施設緊急整備事業(再掲)

(既述につき省略)

3億円
(2億円)

【補正予算】
2億円

(2) 水害等への防災・減災、国土強靱化の更なる推進

① 農業水利施設等の防災・減災対策＜公共＞

農業水利施設等について、自然災害の際にも機能を確保するため、浸水被害の防止に直結する施設の改修・更新、転落防止のための安全防護柵の設置等を実施・支援

【臨時・特別の措置】
(農業農村整備事業)
511億円の内数
(農山漁村地域整備交付金)
42億円の内数

【補正予算】
(農業農村整備事業)
572億円の内数
(農山漁村地域整備交付金)
34億円の内数

② ため池の防災・減災対策＜公共＞

下流への影響が特に大きく、早急に対策が必要な防災重点ため池について、機能・安全性の確保のための改修や利用されていないため池の統廃合等を支援

【臨時・特別の措置】
(農業農村整備事業)
511億円の内数

【補正予算】
(農業農村整備事業)
572億円の内数
(農山漁村地域整備交付金)
34億円の内数

③ 海岸堤防等の防災・減災対策＜公共＞

海岸堤防等について、高潮や津波に対し必要な堤防高確保のための整備、耐震対策等とともに、内水氾濫防止対策、倒壊防止のための補強等を実施・支援

【臨時・特別の措置】
(海岸事業)
4億円
(農山漁村地域整備交付金)
42億円の内数

【補正予算】
(海岸事業)
3億円
(農山漁村地域整備交付金)
34億円の内数

「第42回全国土地改良大会 岐阜大会」に参加



全国土地改良事業団体連合会 二階会長挨拶

去る10月16日(水)岐阜県岐阜市の「岐阜メモリアルセンター 愛ドーム」を会場に、全国土地改良事業団体連合会(以下全土連)・岐阜県土地改良事業団体連合会(以下岐阜県土連)の主催並びに農林水産省・岐阜県等の後援により「第42回全国土地改良大会 岐阜大会」が開催されました。大会テーマ「清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～」のもと、全国から土地改良関係者約4,000人が参集しました。福井県内からは20人の方がご出席くださいました。

式典では、まず岐阜県土連の藤原勉会長が開催地として歓迎の挨拶を述べられ、続く主催者挨拶では全土連の二階俊博会長が、頻発する災害により被災された方々へのお見舞いの言葉に続いて「この7月の参議院選挙において全国の土地改良関係者の皆さんの暖かいご支援によって、土地改良にとって実に12年ぶりの「車の両輪体制」が実現しました。宮崎さんへの激励を引き続き頂戴するとともに、宮崎さん自身先頭に立って土地改良のために奮闘していただきたいと思います。このように土地改良は、令和元年の幕開けにふさわしいスタートを切ることができました。私たちは「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となり、頑張って参らないといけません。「闘う土地改良」とは、土地改良という穏やかな団体には、おおよそふさわしくない言葉かもしれませんが、闘う以外に我々が生き残る道はないと、奮起していただいたのです。」と来場者へ一致団結を呼びかけられました。その後、古田肇岐阜県知事と柴橋正直岐阜市長による歓迎のことばと、伊東良孝農林水産副大臣による祝辞がありました。(二階会長の挨拶は一部抜粋)



表彰会場での木村理事長

次いで行われた土地改良事業功労者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰41名に表彰状と記念品が贈呈されました。本県からは、長きに亘って土地改良事業の推進に尽力されてきた功績が称えられ、坂井土地改良区理事長の木村強氏が農村振興局長表彰の荣誉に、また、前 竹田川南部土地改良区理事長の車谷君夫氏が全土連会長表彰の荣誉に輝いています。



表彰会場での 車谷氏

続いて、農林水産省農村振興局奥田透次長による基調講演と、岐阜県の優良地区事例紹介がありました。

大会宣言は、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科の生徒二人が力強く朗読し、拍手で採択されました。

その後、大会旗が次期開催地である群馬県土地改良事業団体連合会へ引き継がれ、熊川栄会長が開催への意気込みを述べられました。最後に閉会挨拶があり、第42回土地改良大会 岐阜大会が幕を閉じました。



福井県参加者 集合写真

【大会宣言】

私たちは、岐阜に生まれ、岐阜で育ちました。私たちは、今、農業高校で農業を学んでいます。

私たちが暮らす岐阜県は、日本の中心に位置します。県の北部は山岳地帯、南部は平野地帯。高冷地から暖地。北部では、夏の涼しい気候を活かし、南部では、温暖な気候を活かし、多彩な農業が行われています。

今、全国で自然災害が多く発生しています。昨年は、7月豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震などにより、農地や農業用施設が甚大な被害を受けました。これを受けて、国は、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を講じました。

今、全国で農業者の高齢化、農業離れが進んでいます。農業後継者不足が深刻化しています。これを受けて、国は、農地バンクとなる「農地中間管理機構」を設立し、地域農業の担い手となる農業者への農地の集積・集約化を推進しています。また、担い手への農地の集積・集約化を加速させるために、農業者の費用負担が伴わない「農地中間管理機構関連農地整備事業」も創設しました。

今、全国で農業者の減少が進んでいます。農業労働力が不足しています。これを受けて、国は、「スマート農業」の推進を図っています。自動走行トラクター、自動水管理システム、リモコン式自走草刈り機など。現在、全国各地で実証実験に取り組んでいます。

自然災害が多い日本。農業後継者不足の日本。農業労働力不足の日本。こうした日本の農業を、10代の私たちが、引き継いでいかなければなりません。

そのために、自然災害に強い農業基盤の整備をしてください。地域農業の担い手が生産しやすい農業基盤の整備をしてください。スマート農業が推進できる農業基盤の整備をしてください。

岐阜県は、県土の8割が豊かな森林です。そこで蓄えられた水が清流となり、農地を潤しています。農地の周りには、農村が形成されています。

清流の水、農地の土、農村の里。水土里の恵みは、新たな世代へ引き継いでいかなければなりません。土地改良は、未来への懸け橋です。

本日ここに集う私たち「水土里ネット」は、「清流で未来をうるおす土地改良 ～水土里の恵みを新たな世代へ～」を合い言葉に、未来への懸け橋である土地改良を、豊かな恵みである水土里を、新たな世代へ引き継いでいくことを、ここ「清流の国ぎふ」から、高らかに宣言します。

「農業農村整備の集い」 ～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～ に参加



▲一致団結する会場

去る11月11日(月)午後1時半から、東京都「シェーンパッハ・サボー」を会場に、全国から約1,300名の土地改良区等関係者が集まり「農業農村整備の集い」が開催されました。福井県からは14名が参加しています。会場には、江藤拓農林水産大臣をはじめ、多数の国会議員、農村振興局幹部も参集し、盛大に開催されました。

開会にあたり、全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長は主催者として一層の団結を力強く呼びかけられました。

来賓挨拶に続き情勢報告があり、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問である宮崎雅夫氏から、全国の土地改良区を廻って感じた、農地・施設を守る人の重要性や、土地改良区の運営・体制強化の必要性についての話がありました。

その後事例発表があり、最後に要請書案文が満場一致で採択され、一同が予算確保への積極的な活動を約束し、ガンバロウ三唱で幕を閉じました。

集いの終了後には、採択された要請書を携え、農林水産省、財務省、復興庁、各県選出国会議員等に対して、各県からの参加者が要請活動を行いました。

「全国水土里ネット女性の会」設立総会に出席

去る12月10日(火)午後1時半から砂防会館別館1階会議室を会場に、約80名の女性を中心とした土地改良関係者また各地の女性の会関係者が集まり、「全国水土里ネット女性の会」設立総会及び研修会が開催されました。



▲出席者集合写真

既に都道府県単位で組織されている女性の会(12月時点14団体)や、設立準備県相互のネットワーク形成や連携、情報の共有を強化するためにも全国単位の組織化が望まれ、設立の運びとなりました。当会からは、竹内成子理事と事務局が出席しています。

本総会において、会則、役員、活動計画等が審議され、原案のとおり承認されました。

役員名簿

会 長 萩原 丈巳(水土里ネットやまなし 総務課長)
副会長 戸松 若菜(水土里ネットみやぎ 総務部次長)
荒木 美子(水土里ネット岡山 総務部長)
顧 問 進藤優貴子(進藤金日子参議院議員 令夫人)
宮崎 匡代(宮崎雅夫参議院議員 令夫人)
相談役 武山 絵美(愛媛大学大学院農学研究科教授)



要請活動報告

県内 各 農業農村整備事業推進協議会 合同要望・提案活動

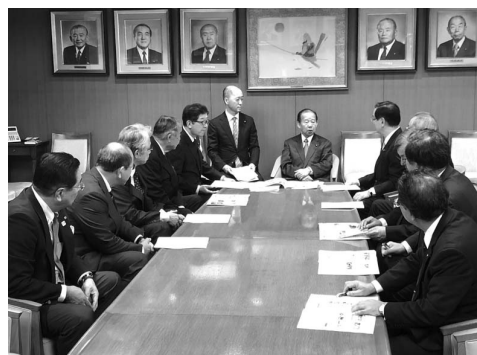


▲ 要請書の説明を受ける、山崎正昭参議院議員

去る11月11日(月)、12日(火)、福井県内の5管内ごとに組織されている農業農村整備事業推進協議会から土地改良区の理事長らが出席し、令和2年度当初予算の確保に向けて要請活動を行いました。福井県土地改良事業団体連合会からは廣畑副会長と野坂専務理事、事務局が参加しました。

農業の競争力強化に向けた生産基盤の整備、農業水利施設の長寿命化対策、農村地域の防災減災対策の推進に向けた令和2年度予算の確保、並びに農業水利施設の維持管理体制強化への支援を求める要望書を携え、11日には県選出国會議員に、12日には農林水産省において情報交換会の場も設けられたほか、農村振興局幹部に対して要請活動を行いました。

北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 中央要請

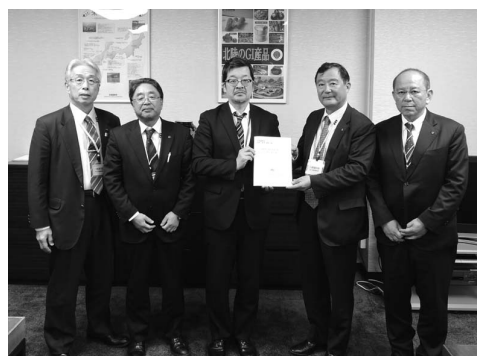


▲ 二階幹事長 へ要請

去る11月19日(火)、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は各連合会から役職員が出席し、農業農村整備事業推進に関する要請活動を行いました。福井県土地改良事業団体連合会からは廣畑佐一副会長と事務局が出席しました。

麻生太郎財務大臣をはじめ、財務省幹部、主計局幹部、及び農林水産省幹部、農村振興局関係部局に対して、また、自由民主党二階俊博幹事長ならびに、伊東良孝農林水産副大臣に対して、各県の現状を説明すると共に令和2年度予算の確保について強くお願いしました。

北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 北陸農政局要請



▲ 森澤北陸農政局長 へ要請

去る12月4日(水)、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は各連合会から専務理事並びに事務局が出席し、農業農村整備事業推進に関する要請活動を行いました。福井県土地改良事業団体連合会からは野坂雄二専務理事と事務局が出席しました。

森澤敏哉北陸農政局長、平岩裕規局次長また、局幹部との意見交換の場も設けられ、土地改良区の声が届ける機会となりました。

福井県土地改良事業団体連合会 知事要請



▲ 杉本知事に要請書を手渡す山崎会長と当会理事



▲ 杉本知事、森川部長、木戸副部長に説明をされる山崎会長

去る12月23日(月)福井県庁7階「知事応接室」にて、杉本達治福井県知事に対して、農業農村整備事業に関する要請活動を行いました。

当会からは、山崎正昭会長、廣畑佐一副会長、並びに福井管内より芝原用水土地改良区の木村市助理事長、坂井管内より十郷用水土地改良区の山本文雄理事長、奥越管内より大野市土地改良区の西川文人理事長、丹南管内より日野川用水土地改良区的美濃美雄理事長、更に竹内成子理事と川合久利子理事、野坂雄二専務理事の計9名が各地域を代表して出席しました。県からは杉本知事をはじめ、森川峰幸農林水産部長、木戸敏浩農林水産副部長に出席いただきました。

山崎会長が「農業は大きな転換期を迎えている。来年も強力な支援をお願いしたい。」と述べたのに対して、杉本知事は「農業農村は守っていく必要がある。昨年度に比べ農業予算を増やしたが、今後も予算確保に努めたい。」と返答いただきました。

意見交換では、理事からの地域の実情に即した要望に対して知事の丁寧な回答を頂き、終始和やかな会談となりました。

< 要請書概要 >

1. 農業農村整備事業の着実な事業推進について

- 農業の競争力強化の実現のため、スマート農業の導入など生産コストの削減に向けた農地の大区画化や水稻と園芸作物の複合経営による農家所得の向上に向けた農地の汎用化などの整備をより一層推進すること。
- 集中豪雨など近年頻発する自然災害を未然に防ぐ防災・減災対策や老朽化が進行し耐用年数が超過したため池や排水機場等の農業水利施設の更新整備など、国土強靱化に向けた対策を推進すること。
- 農業農村整備事業の計画的・安定的な推進のため、令和二年度予算について、大規模な農業法人から小規模農家まで全ての農家の要望にこたえられるよう必要な予算を確保すること。

2. 施設の適切な維持管理体制の強化について

- 本県の基である農業の生産基礎を支える農地や農業水利施設等の整備と施設の適正な維持管理を担う土地改良区の重要性を認識し、指導する農業土木技術者の確保をはじめ、土地改良区の運営基盤を強化する対策を講じること。
- 美しい農村景観などを創出する農業・農村の多面的機能が良好な状態で次世代に引き継がれるよう地域住民が一体となって行う農地や農業水利施設の保全管理活動を支援すること。

土地改良区だより 2019年11月

土地改良区の活動等についてお知らせします。土地改良区の情報を募集中です。

【足羽川堰堤土地改良区連合】

【世界かんがい施設遺産】足羽川用水体感スタンプラリー 【11月3日(日)】

11月3日、世界かんがい施設遺産に登録された「足羽川用水」のPRを目的として、3回目のイベントが開催されました。土地改良区連合の皆さんをはじめとした足羽川用水企画実行委員会が毎回企画を新たにし、何度でも楽しんでもらえるよう工夫されています。1回目はガイド付きのウォーキング、2回目は徳光用水のボート下り、そして3回目の今回はクイズを解きながらのスタンプラリーでした。106名の参加者の皆さんは、マイペースで歩きながら楽しまれたようでした。

今回は散策後にアンケートとお楽しみ抽選会ができました。各土地改良区から景品の提供があり、大変盛り上がりしました。また、参加賞は一乗谷あさくら水の駅で収穫した新米コシヒカリのおにぎり、新たに制作した足羽川頭首工の頭首工マグネット。楽し気に帰られる参加者の方を見ると、スタッフとして、準備から誘導、警備等にあたられた土地改良区役員の皆さんや地元の皆さんあつてのイベントだと改めて感じました。



▲普段は入れない施設の説明も



▲大勢の方が参加くださいました



▲スタンプは忘れません

お問い合わせ先

福井県土地改良事業団体連合会 総務部 企画開発課 (電話:0776-23-7777)

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019 結果報告



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019について、10月8日に審査が実施され、全国土地改良事業団体連合会より審査結果の報告がありました。

今回は、全国で5,224点、県内から234点の応募がありました。今号の表紙は全国賞に入賞した文殊小学校の松浦さんの作品です。次号も受賞作品が表紙を飾りますので、お楽しみに。

賞		学校名・学年・氏名			タイトル	応募団体
ふるさと水と土優秀賞		福井市文殊小学校	6年	松浦小夏	光輝く用水路	足羽文殊土地改良区
団体賞	水土里ネットふくい会長賞	福井市森田小学校	5年	中道伊織	私の家から見える田んぼの風景	福井県土連
	足羽川堰堤土地改良区連合理事長賞	福井市酒生小学校	3年	平 美咲	自然の田んぼ	足羽川堰堤改良区連合
	足羽文殊土地改良区理事長賞	福井市文殊小学校	6年	水野嵩大	青空の下で	足羽文殊土地改良区
	松ヶ鼻農地・水・環境保全組織会長賞	越前市立北日野小学校	2年	三好瑛明	ザリガニを見つけたよ。	松ヶ鼻土地改良区

お問い合わせ先

福井県土地改良事業団体連合会 総務部 企画開発課 (電話:0776-23-7777)

行 事 予 定

2月 5日(水)	第138回監事会	総務課
2月 10日(月)	換地関係実務研修会 (会場: 福井県国際交流会館)	土地改良課
2月 15日(土)	第220回理事会	総務課
3月 21日(土)	第62回通常総会 (会場: 福井県自治会館)	総務課

※本誌の発行日によって記載している行事が終了している場合や、記載がない行事が実施される場合、また詳細が未定のものは変更される場合がありますのでご了承下さい。

農業基盤整備資金利率のお知らせ

令和2年1月21日付けの日本政策金融公庫 農林水産事業の農業基盤整備資金貸付利率についてお知らせします。
問い合わせ先: (株)日本政策金融公庫福井支店 TEL:0776-33-2385 HP: <http://www.jfc.go.jp/a/>

(単位: %)

区 分		融資期間にかかわらず	融資期間別 (一例) (%)			
			5年	10年	15年	20年
補助事業	県 営	0.35	—	—	—	—
	団体営	0.20	—	—	—	—
非 補 助	一 般	0.20	—	—	—	—
	利子軽減	0.20	—	—	—	—
災 害 復 旧		—	0.16	0.16	0.20	0.20

水土里ネットふくい(福井県土地改良事業団体連合会)の連絡先

〒910-0014 福井県福井市幾久町8番17号 (FAX) 0776-24-1400 <http://www.midorinet-fukui.jp>

総務課、企画開発課	(TEL) 0776-23-7777	soumu@midorinet-fukui.jp
土地改良課	(TEL) 0776-23-7775	jigyo4f@midorinet-fukui.jp
システム管理課		
計画設計課 環境計画課 (農村環境分析センター)	(TEL) 0776-23-7776	jigyo3f@midorinet-fukui.jp

嶺南事務所 〒919-1556 福井県三方上中郡若狭町玉置11-58 (TEL/FAX) 0770-57-2727

